形や色，手触り等あらゆる点に着目し，観察することができる児童の育成
第１学年生活科単元「きせつと　ともだちーいろや　かたち　たくさん　見つけたー」

鳥栖・基山支部　基山町立基山小学校　宮本育美

１　本研究の主張点

本授業に取り組むに当たり，４月当初から春・夏と季節ごとに植物の観察を通して，季節の移り変わりや植物の成長の観察につながる体験をさせることができた。中でも秋は，葉が落ちたり，色が変わったり，木の実ができたりすることに着目させるために，実際に児童が見つけてきた秋の素材で壁飾りを作ることにした。

２　単元計画（全１８時間）

次	時	主な学習活動
１	１	秋を探そう，感じよう
２	１０	秋を探そう，秋と遊ぼう
３	３	秋で遊ぼう（**本時**）
４	４	わたしたちの秋で遊んでもらおう

３　本時の目標

秋の自然の形・色を工夫して使って，壁飾りを作ることができる。（活動や体験についての思考・表現】

４　授業の実際（本時 12/18）

児童の学習活動や主な反応	・具体的な指導　◆評価
１　壁飾りの作品を紹介する。	・　作品の例を示し，児童の意欲を高める。
２　めあてを確認する。	
あきのはっぱやどんぐりをつかって，かべかざりをつくろう。	
３　作品がどんな素材でできているのか，クイズをする。	・　壁飾りの動物や形が，どんな素材でできているのかクイズにして着目させることで，自分が作るときの参考にさせる。
４　作る手順を確認する。	①何を作るか決める。 ②どの材料で作るか決める。 ③ならべてみる。 ④うまくできたらボンドで貼る。
５　お約束を確認する。	おやくそく 「ざいりょうをきったりちぎったりせず，そのままつかおう」

6　手順に従って作る。(⑧観察・実験の内容や方法の改善可能性の吟味)

・　何を作るか決まらない児童には，作りたい動物を決めさせたり，持っている秋の素材が何に見えるか一緒に考えたりして活動を進めさせる。

◆　秋の素材を活かして壁飾りを作ることができる。【活動や体験についての思考・表現】

●　素材が何に見えるか考えたり，作りたい動物にどの素材が一番似ているかを教師と一緒に見つけたりする。

7　物の形や色合いをうまく利用して作成している児童の作品を紹介する。

・　形や色の使い方に触れたり，児童によいところを発表させたりして，秋の素材がどのように使われているのか気付かせる。

５　考察

４月当初から春・夏と季節ごとに植物の観察をしていたので，季節の移り変わりや植物の成長の観察につながる体験をさせることができた。特に秋は，葉が落ちたり，色が変わったり，木の実ができたりすることに着目して観察させた。また，児童が見つけてきた秋の素材で壁飾りを作ることで，手触りや色合い，形等をより明確に理解させることができたと思う。自然のそのままの形を使って壁飾りを作ることを通して，様々な観点から素材を観察する視点をもつことができた。これは，第３学年から始まる理科の観察への第一段階となったのではないかと考える。